

米国農務省穀物等需給報告(2026年3月10日発表のポイント)

令和8年3月11日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、3月10日(現地時間)、2025/26年度の10回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通し等を発表した。その概要は以下のとおり。

—2025/26年度の穀物の生産量は消費量を上回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓→は前月見通しからの増減)

- ① 生産量:29億7,653万トン(対前年度比 4.3%増)↑
- ② 消費量:29億5,964万トン(対前年度比 3.0%増)↑
- ③ 期末在庫量:7億9,227万トン(対前年度比 2.2%増)↑
期末在庫率:26.8%(対前年度差 0.2ポイント減)↑

【主な品目別の動向】

小麦: 豪州で生産量が下方修正されたものの、ウクライナ及びカザフスタンの生産量が上方修正されたことを受け、世界全体の生産量は、前月から上方修正された。前年度からも増加する見通し。なお、豪州は下方修正となったものの、史上3番目の生産量となる見通し。世界の消費量も前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回り、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:8億4,212万トン(対前年度比 5.2%増)↑…EU、アルゼンチン、ロシア、インド、カナダ等で増加
- 2 消費量:8億2,480万トン(対前年度比 1.8%増)↑…EU、インド等で増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量:2億7,696万トン(対前年度比 6.7%増)↓…インド、ロシア、EU、ウクライナ、米国等で増加、中国等で減少
期末在庫率:33.6%(対前年度差 1.5ポイント増)↓

とうもろこし: アルゼンチンで生産量が下方修正されたものの、ブラジル及びウクライナの生産量が上方修正されたことを受け、世界全体の生産量は、前月から上方修正された。前年度からも増加する見通し。世界の消費量は前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:12億9,744万トン(対前年度比 5.4%増)↑…米国、中国、ウクライナ、メキシコ、アルゼンチン等で増加、ブラジル、EU等で減少
- 2 消費量:13億51万トン(対前年度比 4.0%増)↓…米国、中国、ブラジル、メキシコ等で増加
- 3 期末在庫量:2億9,275万トン(対前年度比 1.0%減)↑…米国、ウクライナ等で増加、中国、ブラジル等で減少(前月に比べ、ブラジル等で上方修正)
期末在庫率:22.5%(対前年度差 1.2ポイント減)↑

コメ(精米): 世界全体の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から減少する見通し。世界の消費量は、アフリカ諸国における消費予測の引下げを受け、下方修正された。前年度からは増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回り、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:5億4,128万トン(対前年度比 0.1%減)→…インド等で増加
- 2 消費量:5億4,096万トン(対前年度比 1.9%増)↓…インド、中国等で増加
- 3 期末在庫量:1億9,154万トン(対前年度比 0.2%増)↑
期末在庫率:35.4%(対前年度差 0.6ポイント減)↑

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

アルゼンチン及びウクライナで生産量が下方修正され、世界全体の生産量は、前月から下方修正された。前年度からも減少する見通し。世界の消費量は前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回り、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:4億2,718万トン(対前年度比 0.002%減)↓…ブラジル等で増加、アルゼンチン、米国等で減少
- 2 消費量:4億2,416万トン(対前年度比 2.6%増)↓…中国、米国、ブラジル等で増加、アルゼンチン等で減少
- 3 期末在庫量:1億2,531万トン(対前年度比 1.2%増)↓
期末在庫率:29.5%(対前年度差 0.4ポイント減)↓

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2026年3月10日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		2,822.94	2,853.40	2,976.53	4.3%	3.0	2,299.4
消費量		2,819.31	2,874.74	2,959.64	3.0%	0.2	2,287.4
期末在庫量		796.72	775.38	792.27	2.2%	4.1	480.3
期末在庫率		28.3%	27.0%	26.8%	▲ 0.2	0.1	21.0%
小麦							
生産量		791.53	800.43	842.12	5.2%	0.3	660.8
消費量		796.73	810.24	824.80	1.8%	0.7	680.3
期末在庫量		269.44	259.63	276.96	6.7%	▲ 0.6	180.6
期末在庫率		33.8%	32.0%	33.6%	1.5	▲ 0.1	26.5%
粗粒穀物							
生産量		1,507.47	1,511.32	1,593.13	5.4%	2.7	1,162.6
消費量		1,497.85	1,533.86	1,593.88	3.9%	0.2	1,141.9
期末在庫量		347.07	324.52	323.77	▲ 0.2%	4.0	176.1
期末在庫率		23.2%	21.2%	20.3%	▲ 0.8	0.2	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,231.13	1,230.59	1,297.44	5.4%	1.5	903.3
消費量		1,221.24	1,250.02	1,300.51	4.0%	▲ 0.8	880.6
期末在庫量		315.25	295.82	292.75	▲ 1.0%	3.8	145.5
期末在庫率		25.8%	23.7%	22.5%	▲ 1.2	0.3	16.5%
コメ(精米)							
生産量		523.93	541.65	541.28	▲ 0.1%	-	476.0
消費量		524.74	530.64	540.96	1.9%	▲ 0.8	465.2
期末在庫量		180.21	191.22	191.54	0.2%	0.7	123.6
期末在庫率		34.3%	36.0%	35.4%	▲ 0.6	0.2	26.6%

【大豆】

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比		前月差
生産量		396.40	427.19	427.18	▲ 0.002%	▲ 1.0	268.9
消費量		383.69	413.40	424.16	2.6%	▲ 0.6	265.4
期末在庫量		115.08	123.84	125.31	1.2%	▲ 0.2	58.3
期末在庫率		30.0%	30.0%	29.5%	▲ 0.4	▲ 0.01	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(March 10, 2026)

「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2026年3月10日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (予想)	2025/26		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		458.90	452.42	508.41	12.4%	-	353.0
消費量		366.49	360.32	381.87	6.0%	▲ 0.01	317.1
輸出量		85.72	100.66	116.98	16.2%	▲ 0.1	51.6
期末在庫量		68.09	67.34	83.87	24.5%	▲ 0.1	44.2
期末在庫率		15.1%	14.6%	16.8%	2.2	▲ 0.01	12.0%
小麦							
生産量		49.10	53.85	54.01	0.3%	-	61.3
消費量		30.18	31.12	30.71	▲ 1.3%	-	37.8
輸出量		19.21	22.48	24.49	8.9%	-	27.5
期末在庫量		18.95	23.26	25.34	8.9%	-	19.5
期末在庫率		38.4%	43.4%	45.9%	2.5	-	29.9%
粗粒穀物							
生産量		402.88	391.51	447.83	14.4%	-	285.3
消費量		331.42	323.90	345.74	6.7%	▲ 0.01	275.5
輸出量		63.37	75.31	89.78	19.2%	0.01	20.7
期末在庫量		47.87	42.37	56.93	34.4%	▲ 0.1	23.5
期末在庫率		12.1%	10.6%	13.1%	2.5	▲ 0.01	7.9%
とうもろこし							
生産量		389.67	378.27	432.34	14.3%	-	273.2
消費量		322.87	311.60	334.53	7.4%	-	263.0
輸出量		57.28	72.60	83.82	15.5%	-	18.5
期末在庫量		44.79	39.40	54.02	37.1%	-	20.9
期末在庫率		11.8%	10.3%	12.9%	2.7	-	7.4%
コメ(精米)							
生産量		6.92	7.05	6.56	▲ 7.0%	-	6.3
消費量		4.88	5.30	5.43	2.5%	-	3.8
輸出量		3.15	2.87	2.70	▲ 5.9%	▲ 0.1	3.4
期末在庫量		1.27	1.71	1.60	▲ 6.4%	-	1.2
期末在庫率		15.8%	20.9%	19.7%	▲ 1.3	0.1	16.1%

【大豆】

項目	年度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (予想)	2025/26		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		113.27	119.05	115.99	▲ 2.6%	-	82.8
消費量		65.44	69.09	73.13	5.8%	0.1	48.6
輸出量		46.27	51.23	42.86	▲ 16.3%	-	36.1
期末在庫量		9.32	8.84	9.52	7.7%	-	3.8
期末在庫率		8.3%	7.3%	8.2%	0.9	▲ 0.01	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(March 10, 2026)
「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)=期末在庫量×100/(消費量+輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向 (2026年)

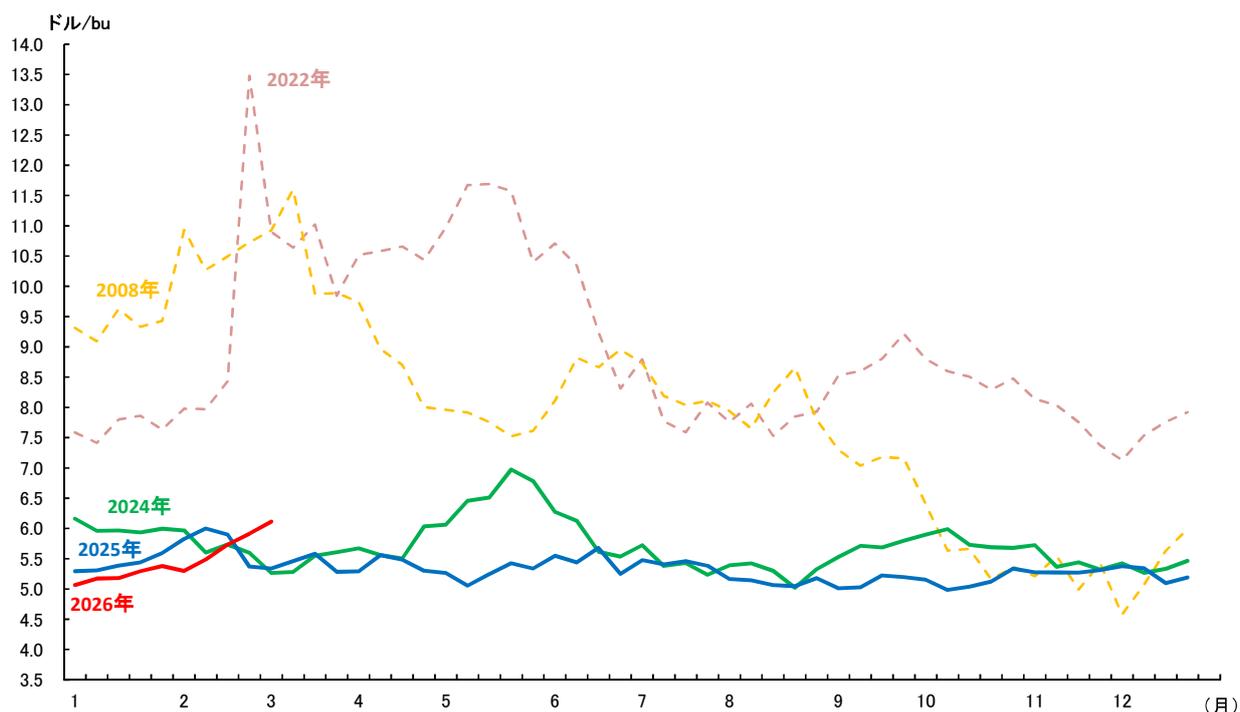
● 小麦 : 6.11 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.34 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における2026年3月第1週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日))

12月末現在、5ドル/bu台前半で推移。1月に入り、米国やロシアの寒波による冬小麦の作柄に対する懸念やドル安等を受けて値を上げ、1月末現在、5ドル/bu台半ばで推移。

2月に入り、世界的に潤沢な供給やドル高等を受けて5ドル/bu台前半まで値を下げたものの、米国の乾燥による作柄懸念等を受けて値を上げ、2月末現在、5ドル/bu台後半で推移。

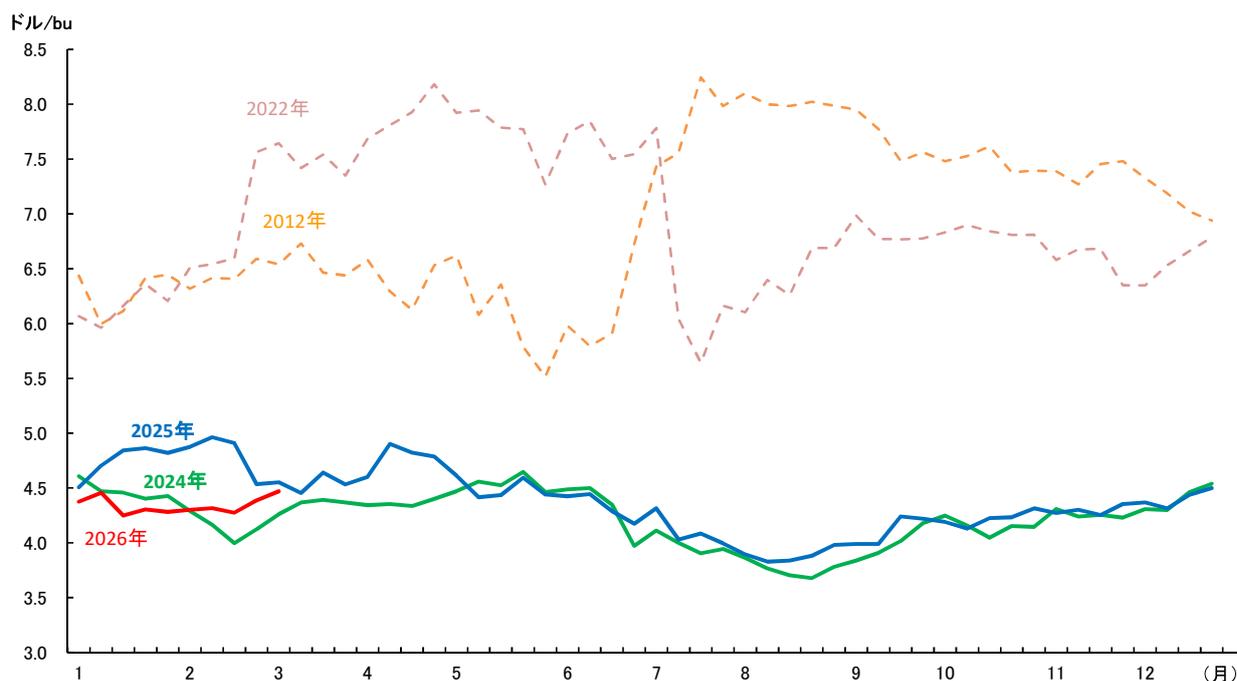


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年及び2022年と直近3年の価格の推移

- とうもろこし：4.47 ドル/bu（前年同時期の価格：4.55 ドル/bu）
 【価格は、シカゴ商品取引所における2026年3月第1週末のセツルメント価格】
 （史上最高値：8.31ドル/bu(2012年8月21日)）

12月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。1月に入り、米国農務省需給報告で米国のとうもろこし生産量が上方修正されたこと等を受けて値を下げ、1月末現在、4ドル/bu台前半で推移。

2月に入り、大豆に連れ高となったこと等を受けて4ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、世界的な天候改善等を受けて4ドル/bu台前半まで値を下げた。その後、米国産とうもろこしの堅調な輸出等を受けて値を上げ、2月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移

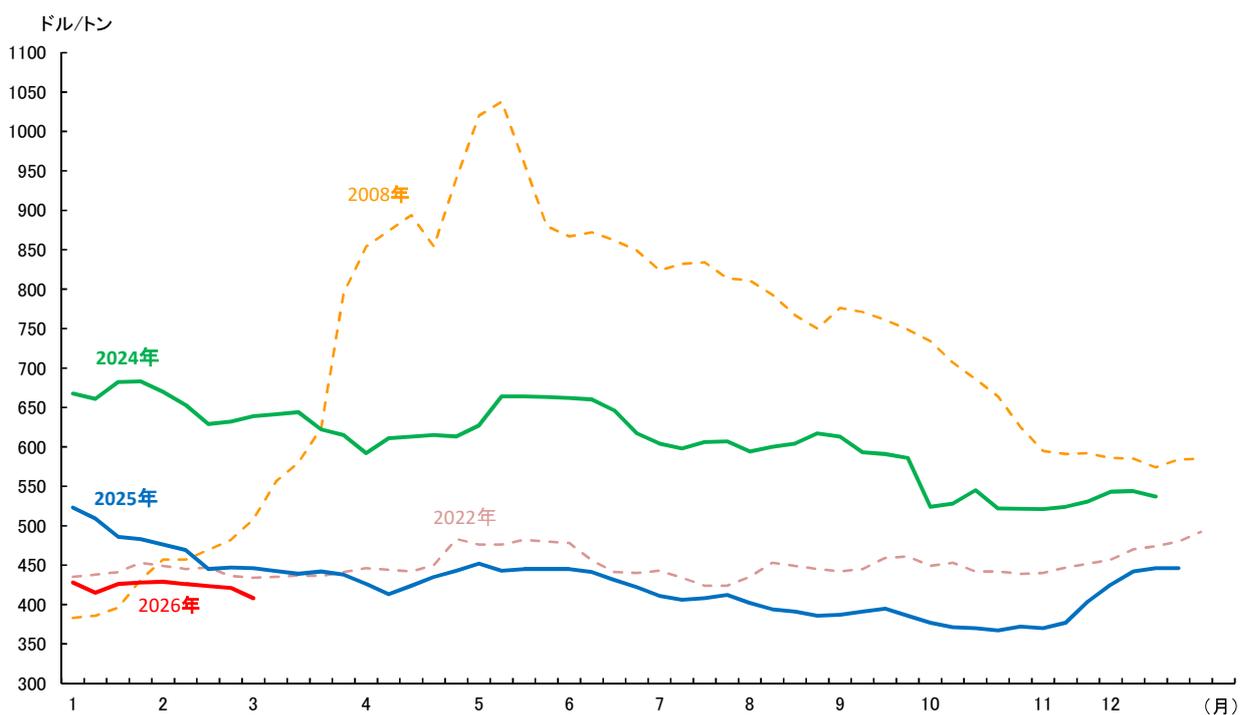
● コメ：408 ドル/トン（前年同時期の価格：439 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における2026年3月第1月曜日のFOB価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008年5月21日)）

12月末現在、440ドル/トン台半ばで推移。1月に入り、世界的な供給増及び需要の低迷等を受けて410ドル/トン台半ばまで値を下げたものの、フィリピンのコメ輸入再開等を受けて再び値を上げ、1月末現在、420ドル/トン台後半で推移。

2月に入り、世界的な供給増及び需要の低迷等を受けて値を下げ、2月末現在、420ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)

グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年及びロシアがウクライナに侵攻した2022年と直近3年の価格推移。

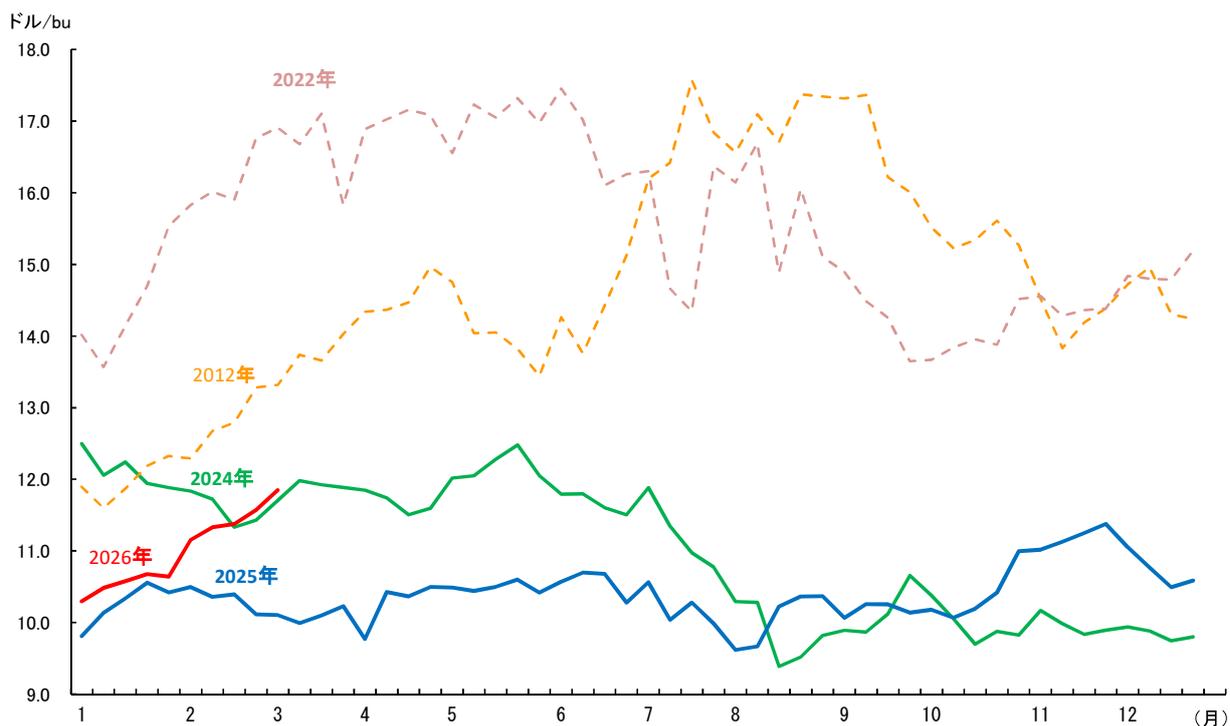
● 大豆 : 11.85 ドル/bu (前年同時期の価格 : 10.10 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年 3 月第 1 週末のセトルメント価格】

(史上最高値 : 17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日))

12 月末現在、10 ドル/bu 台前半で推移。1 月に入り、中国の米国産大豆の継続的な買付け等を受けて 10 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、米国農務省需給報告で米国の大豆生産量が上方修正されたこと等を受けて 10 ドル/bu 台前半まで値を下げた。その後、中国需要に対する期待やアルゼンチンの乾燥懸念等を受けて値を上げ、1 月末現在、10 ドル/bu 台半ばで推移。

2 月に入り、中国による米国産大豆追加購入への期待等を受けて値を上げ、2 月末現在、11 ドル/bu 台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セトルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
108.99	106.73	109.89	131.57	140.59	151.59	156.49	151.96	149.18	144.39	144.75
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
144.50	146.71	147.67	147.94	151.28	155.12	155.88	156.71	155.07		
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年 1月	2月	3月

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
45.01	38.28	65.79	60.71	48.61	50.33	40.33	40.41	42.37	43.29	43.93
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
45.30	51.06	50.44	53.84	50.87	51.05	47.68	46.46	49.14		
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年 1月	2月	3月

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

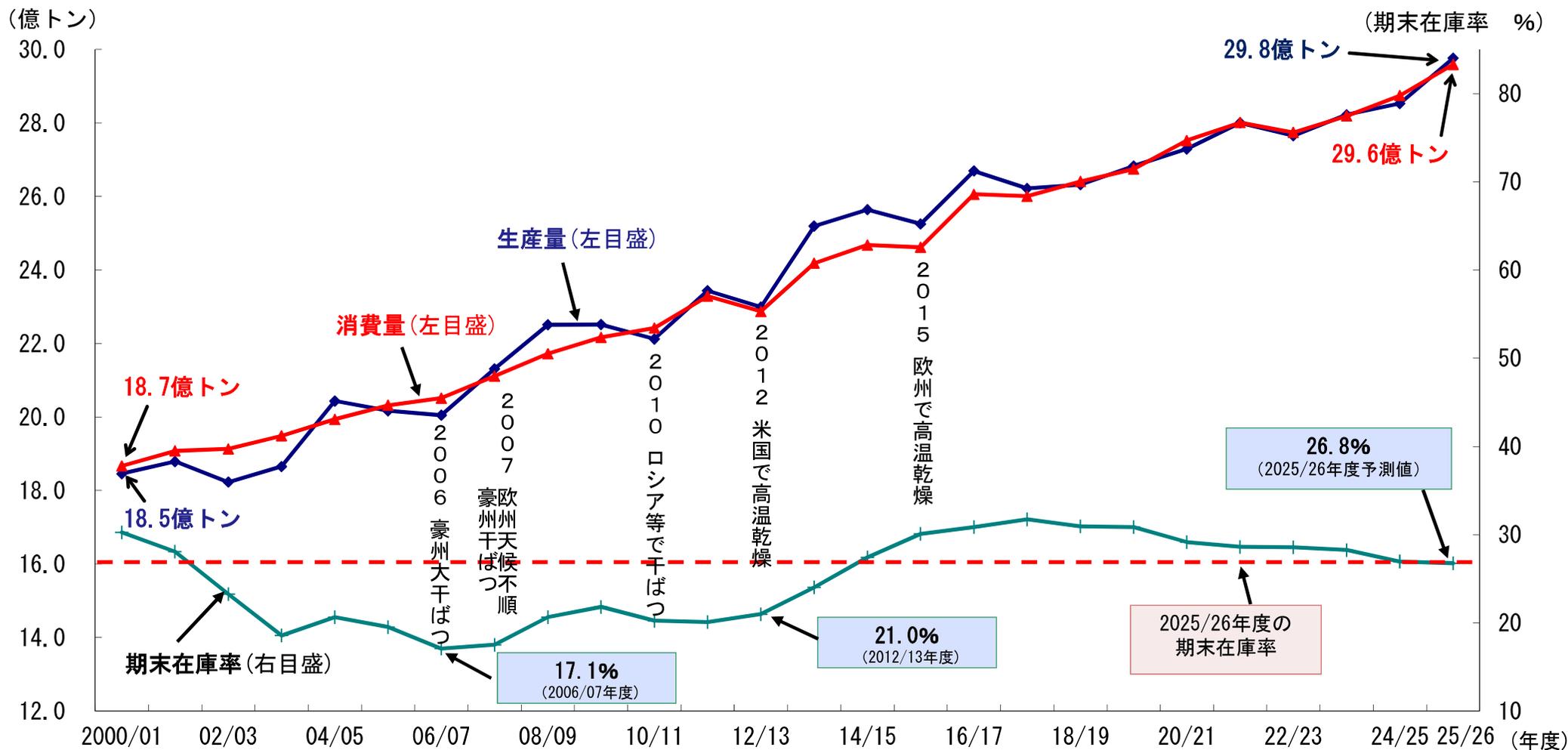
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
57.04	39.34	68.08	94.33	77.61	76.63	75.74	71.53	68.24	63.54	62.17
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
68.17	68.39	64.86	63.96	60.89	60.06	57.97	60.04	64.51		
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年 1月	2月	3月

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」。但し、2024年12月以降は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の月次データ。また、年別の2024年以降は同Reportの年次データ。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回るものの、前年度より減少し、26.8%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(March 2026)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。